

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ともい木		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 20日		～ R8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R8年 1月 20日		～ R8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性や日々の状態に応じた柔軟な支援体制 児童支援計画に基づき、こどもの特性・発達段階・その日の状態に合わせた支援を行っている。グループ活動においても、利用児の状況や職員の配置に応じて活動を分けるなど、柔軟な対応を心がけている。	支援前後の滋養法共有、引継ぎカレンダーの活用。 個別対応が必要な場合は、部屋を分けることやパーティションを活用。	職員間での支援の意図や、根拠の共有をより丁寧に行い、支援の質の均一化を図る。
2	保護者との信頼関係や丁寧なコミュニケーション 送迎時や面談を通じて、こどもの様子や成長、課題について保護者と共有し、共通理解を大切にしている。 保護者が安心して相談できる雰囲気づくりを意識している。	定期的な面談の実施。 具体的で分かりやすい助言を心がけている。	面談内容や助言を記録・共有し、継続的な支援に繋げていく。
3	安全面への配慮と安心して過ごせる環境づくり 室内環境の整理整頓や危険物の管理、出入口の工夫など、安全確保を重視している。 避難訓練や非常食の体験など、防災意識を高める取り組みを行っている。	定期的な避難訓練・感染症対策訓練の実施。 こどもが体験的に学べる防災活動。	職員間での安全管理意識の再確認やマニュアルの見直し。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置や情報共有の余力不足	出勤時間や勤務形態の違いにより、支援前後の打合せが必ずしも全員で行えていない。 こどもの状態によっては、より手厚い配置が必要と感ずる場面がある。	短時間でも共有できる仕組み（記録・共有ツールの活用）の強化。 状況に応じた柔軟な人員配置の検討。
2	PDCAサイクルの「振り返り・改善」の弱さ	振り返りや評価を行い、その後の支援改善につなげる取組子が不十分に感じる。 職員間での振り返りや情報共有を行う時間が不足しているように感じており、PDCAサイクルに広く職員が参画できていない。	定期的な振り返りの機会を意識的に設定。 情報共有の時間を確保。 評価と改善を意識し、次の支援に活かす支援の質向上
3	きょうだい支援の充実や情報提供・周知方法の改善、多様な家庭状況に応じた参加しやすい支援体制づくり	きょうだい対象の支援や交流の機会が限定的に感じる。 行事や支援についての情報提供が、分かりにくいと感じる場面が多い。 行事や懇談会等に参加しにくい家庭への配慮が明確にできていない。	きょうだい支援の目的を明確にし、交流の機会や参加しやすい行事内容の検討。 掲示物や配布物、連絡ツール等を活用し、保護者へ分かりやすく周知・共有する方法の工夫。 参加日や行事・懇談会等に参加できなかった場合に、後日説明や情報提供を行うなど、柔軟な対応の検討。